

SNS を利用した千葉大学卒業生間のコミュニティ形成

大塚成男*1 檜垣泰彦*1 桜井貴文*1 市川智一*2 吉野貴之*3
*1 千葉大学 *2 千葉大学校友会事務局 *3 特定非営利活動法人 TRYWARP
mail@trywarp.com

1. はじめに

千葉大学校友会 SNS「Curio」は 2007 年 1 月に仮運用を開始し、その結果を受けて運営体制・システムの変更を行った後、同年 10 月に正式運用を開始した。「千葉大学校友会」とは 9 つの学部同窓会を横にまとめ、千葉大学と同窓生との情報交換や連携協力を緊密にするための組織である。Curio はこの千葉大学校友会の事業として維持・運営されている。

Curio の目的は、地理的制約のないインターネットの上に全国各地（あるいは全世界）で活躍している千葉大学の卒業生・在籍経験者（千葉大 OB・OG）が相互に交流できる場を設け、「千葉大学」を連結環とする人的ネットワーク（千葉大コミュニティ）を形作っていくことにある。また在校生にとっては Curio を通じて、豊富な知識や経験を持つ OB・OG から、就職や学習・研究について様々な面で有益なアドバイスを得ることができる重要な情報源となることを目指す。

2. 運営方針

Curio は、営利を目的とせずに千葉大学校友会が実施する事業であり、この点で様々な商用 SNS と質的な違いがある。利用者が拡大しなければビジネスとして成立しない商用 SNS とは異なり、Curio では利用者を増加させることを第一の目的とした運営は行なわない。まず参加者が安心して情報の交換を行うことができる環境を整え、その中で漸進的に参加者の拡大を図っていく。商用 SNS では実現することが困難になっているコミュニケーションの手段を提供することが、あえて千葉大学校友会が SNS「Curio」を構築・運営する理由である。

Curio の中では千葉大学在籍時の氏名（実名）で情報交換を行うものとする。千葉大学という共通項をもつ参加者による人的ネットワークを作り上げるうえで、名前こそが最も有効な鍵になると考えている。

3. 仮運用の実施

正式なオープンの前に、校友会事務局が 4 名体制で実務に当たり、半年間仮運用を行った。仮運用の結果、いくつかの課題が明確になった。仮運用での参加者 152 名の多くは学生（在校生）であり、実名を公開することに対する強い拒否反応が見られた。質問・要望のコミュニティでは主張の強い一部のユーザーの声のみが目立ち、底他のユーザーの積極的な参加を阻害する傾向が見られた。インターネットを

使い慣れた学生と、年配を含む卒業生との間のインターネットに対する“文化”の違いが顕著化する結果となった。

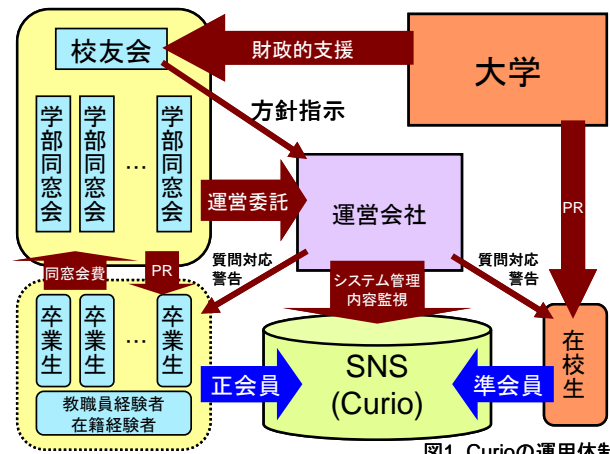
4. 正式運用への設計・実装

運営基本方針に基づき、実名公表を必須とした。悪意を持った部外者が Curio の中に入り込むことを防止し、安心して実名参加できる環境を実現するため、申込時には本人確認書類の提出を求めることとした。

仮運用での経験を元に、正式運用に向けて方針や設計の変更を行った。あくまでも卒業生を中心としたコミュニティであることを明確にするため、正会員（卒業生）と準会員（在校生）に区分した。また、システム内のあらゆる活動の履歴を確認できるよう、ログ機能を強化した。

SNS 運営に実績のある業者に日常的な事務局業務を委託することにより、トラブルや不適切な行為に常時対応できる体制を整備した。質問や要望などはメッセージによる 1 対 1 での対応を基本とする方針に変更した。生年月日を非公開と出来るよう選択機能を追加した。卒業生を中心とした SNS にするため、準会員には日記やコミュニティの活動に制限を設けた。

実装は OpenPNE (<http://www.openpne.jp/>) をベースとした。カスタマイズと独自機能の追加は TRYWARP があたった。



5. 正式運用

仮運用では「千葉大学 SNS」としていたが、正式運用では運用主体を明確にするため、「千葉大学校友会 SNS」とした。また、校友会が運営会社(TRYWARP)に運営委託する形式とした。ユーザー登録は校友会での本人確認作業の後、運営会社で登録作業を行う。

パスワード紛失などの日常的な質問への対応、警告、システム管理や内容の監視も運営会社が行っている。正式運用開始直後は約 200 人であった利用登録者は 2009 年 5 月末時点では 1,843 人となり、そのうち 1,769 人(96%)が正会員である。

ユーザー増加は図 2 の通りである。卒業式での広報を行っているため、例年 4 月が増加傾向にある。

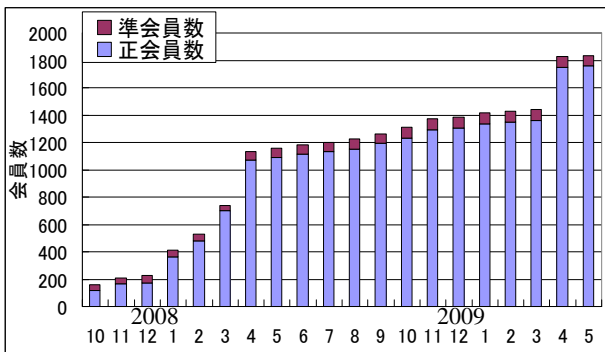


図 2: Curio 会員数の推移

ただ、卒業したばかりの登録者は生活環境の変化など多忙な時期であり、あまりサイトを利用する余裕がないと見られる。より大学時代のつながりを容易に見出せるよう、所属学部を中心としたプロフィールを事務局から呼びかけているのだが、残念ながら登録率は図 3 の通り低いのが現状であり、66%にあたる 1,213 人が登録していない。

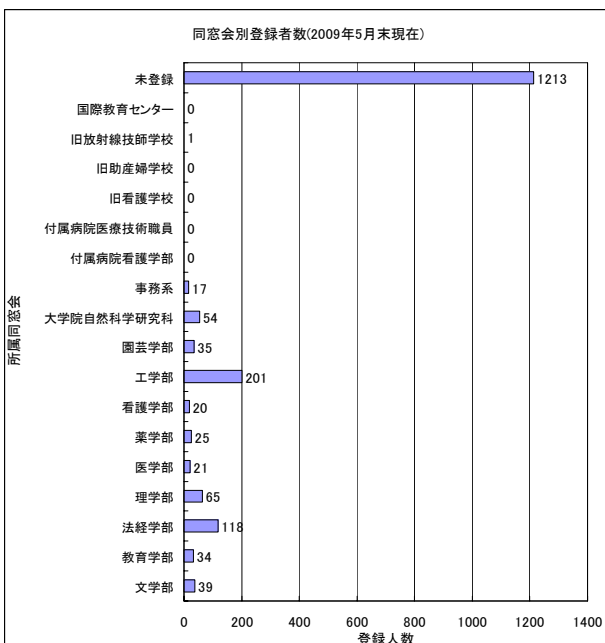


図 3: 同窓会別登録者数(2009年5月末現在)

6. カスタマイズの実施

Curio では前述した会員区別をはじめ、OpenPNE をベースに多くのカスタマイズを施している。ユーザーからの意見交換の場も設け、運営を行っている。実際にユーザーから PDF をアップロードできる機能が欲しいという声が上がリ、実装される運びとなった。

今後も Curio の目的に沿って使いやすくするために、随時カスタマイズを行っていく予定である。

7. 今後の展望と課題

卒業生の総数は約 10 万人であるなか、現状の登録者数は必ずしも多いとは言えない。商用 SNS ではない Curio では、ユーザーの利用頻度をむやみに高める必要はない。卒業生との関わりを維持し、ユーザーが相互に消息情報を交換する安定した手段として定着させることが目的となる。

利用頻度を高める必要はないとはいえども、基本の情報登録を促す必要がある。登録時に入力されている内容は氏名のみであり、これだけでは個人を特定するのは難しい。実際に在学時代のサークルの恩師の消息を Curio を通じて分かった方もおり、このような事例を増やしていくためにも所属する同窓会や、入学・卒業年度などの情報の入力を事務局から定期的に要請している。

これらの千葉大卒業生、在校生及び関係者同士のネットワークを構築していくために、利用しやすい機能の充実と活性化を図っていく。



図 4: Curio ログイン後画面